

R 8 年度 第 2 回 砂丘小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年7月23日（木） 14時00分から16時00分まで
- 2 開催場所 砂丘小学校 コミュニティルーム
- 3 出席委員 川嶋 利博、竹内 孝夫、家本 清子、松下 克己、宮本 貴史、
梅村 瑛子、鈴木 可奈、森下 泰子
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 齊田 剛志（白協協働センター）、鈴木 ふじ子
- 6 学校支援コーディネーター 西尾 進治、高島 大輔
- 7 学 校 神谷 利之（校長）、河村 誠（教頭）、窪野 伸洋（教務主任）、
早瀬 文章、藤安 恵子、小川 魁土、高野 友、鈴木 綾子、
伊熊 忍、那須田 康代、中村 里美（CSディレクター）
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 中村 里美
- 10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、宮本委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

テーマの確認「通いたくなる魅力ある砂丘小になるために」

- （１）特色ある学校づくり～砂丘小の魅力と課題～
- （２）地域をいかした「総合的な学習の時間」や教育活動について
- （３）教職員の働き方改革

12 会議記録

司会の教頭から、委員総数8人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

議長の指示により、熟議テーマに沿って、委員、教諭が2つのグループに分かれて意見を出し合った。

【A グループ】川嶋、竹内、梅村、鈴木可奈、高島、鈴木ふじ子、神谷、窪野、藤安、
鈴木綾子、伊熊、

【B グループ】宮本、家本、松下、森下、西尾、齊田、河村、早瀬、小川、高野、
那須田

（１）特色ある学校づくり～砂丘小の魅力と課題～

少人数教育が強みであり課題でもある。

児童は素直でかわいらしく、学年・男女関係なく仲が良い。一方、人間関係が固定しやすく広げる機会の喪失や逃げ場がないという面も生まれかねない。

教員が一人一人の個性や悩みを深く理解し、手厚くカバーできる。その反面、教員一人当たりが抱える担当業務が多く負担が増大している。

児童全員に活躍の場があり、何度も経験を積める。しかしチームスポーツなど大人数前提の活動が不可能である。

地域に根差した学校であることも魅力である。

（２）地域をいかした「総合的な学習の時間」や教育活動について

海、サーフィン、たまねぎ畑、レトロな街並みの卸本町など魅力を再認識し、ここで育つ子どもが地域に誇りを持てるような原点・起点になる活動をしてほしい。

地域で働く人々の姿を学び、自分たちの住む砂丘をどう活性化するかを考えてほしい。公園の整備（草刈り）への参加や、どのようなまちに住みたいかという発想を大人に発信し、大人がそれをサポートできる仕組みづくりへつなげていきたい。

地域かるたの作成などアウトプットの仕方も工夫し地域愛を育んでいきたい。

地域等大勢に向けてプレゼンテーションする能力の育成を通して、社会とつながる実践的なコミュニケーション能力を培い、子どもの自信を育んでほしい。

（３）教職員の働き方改革

教員の働き方改革と併せて、学校運営協議会委員が花壇活動、ボランティアなど中核を担う関わりをもつおかげでクオリティの高い学校運営ができています。今後さらに家庭科室の整理整頓や、水泳における安全確保のための見守り、チームスポーツの人数補助をできないか等、具体的な要望が教員から提示された。また、多様な専門人材の招致を行い、教科書にはない生き方やスキルを児童に伝える場が増やしていきたいという発言もみられた。

教員は「児童との対話と授業」というコア業務に集中し、地域が「周辺環境と専門体験」を担う分業体制により教育の質の向上を目指したい。そのために先生と地域の方々とのすり合わせが必要であり、ブラッシュアップしていきたい。

学校と地域が密接に連携し、地域全体で子どもを育てる持続可能な体制づくりを目指していきたい。

その他報告事項等

（１）今後の予定について

教頭から、本校卒業生による落語講座が先週行われ、23日はポスター講座が開催された旨の説明があった。24日は海の講座が開催され、新聞等で取り上げてもらう。また、ブログの更新にも力を入れ、学外にも積極的にアピールしていくと連絡があった。

次回会議は、令和8年10月22日（木）午後2時からコミュニティルームで開催すると告知された。